

7 農薬の調製

(1) 農薬の溶かし方

①乳剤の場合

計量した農薬を所定量の水に徐々に加え、よくかき混ぜて溶かす。

ただし、混ざりにくい乳剤については、あらかじめ乳剤原液の所定量と同量の水を入れてよくかき混ぜて濃い液を作り、次にこれを所定量の水によく混ぜながら徐々に加える。

②水和剤の場合

計量した農薬を所定量の水の表面に徐々にばらまき、水になじんで沈むのを待ってからよくかき混ぜる。

ただし、混ざりにくい水和剤については計量した農薬に少量の水を加え、のり状に練り、所定量の水によく混ぜながら徐々に加える。

③液剤、水溶剤の場合

計量した農薬を所定量の水に加え、よくかき混ぜて溶かす。

(2) 農薬の混合方法

容器に所定量の水を入れた後に薬剤を加える。一般的に界面活性剤の多い順に入れる。はじめに展着剤を入れ、製剤を水に分散しやすくする。次に乳剤を入れる。乳剤は油状だが、混ざりやすい製剤にしている。最後に水和剤やフロアブルを入れる。

【水和剤同士を混合する場合】

片方の水和剤を使用基準どおりに溶かす。次に、もう一方の水和剤を加えて混合液を作る。

* 上記によらず、メーカーが指定する場合はそれに従う。(例：ジーファイン水和剤は、乳剤または展着剤より先に所定量の1/2～全量の水に溶かす。)

(3) 展着剤について

作物には薬液が付着しやすいものと、付着しにくいものがある。付着しにくい作物では、一般的に展着剤を使用する(特に水和剤等)。展着剤の主成分は界面活性剤であり、薬液の付着性や浸透性を高める効果がある。なお、乳剤には界面活性剤が含まれるが、薬液の効果を高めるため、必要に応じて展着剤を使用することが望ましい。

* 付着しにくい作物…キャベツ、ねぎ、水稻 など
付着しやすい作物…きゅうり、とうもろこし、もも など

* 展着剤の加えすぎは、かえって残効性等が低くなる恐れがある。所定の濃度を守ること。

* 農薬によっては、使用に際して薬害等の注意事項が記載されているものもある。使用の際は、ラベルの記載事項を守る。